令和８年度第２回事業推進委員会

会議情報

日　付: 2026-09-27 15:00～16:35
場　所: 佐伯地域コミュニティセンター大会議室　（旧：三余館）
参加者: 川野委員長、山本副委員長、工藤委員、早川委員、松木委員
三浦委員、津崎委員、丸山委員、山田委員
欠席者: 笛吹委員
事務局: 半田部長、山﨑部長、菅
観光まちづくり佐伯職員: 川野課長、小野課長、古田課長、近藤課長、
宮本主任、三浦主任、川野主任、國部主事、
伊藤主事

※第１回事業推進委員会に引き続き、川野委員長に議事の進行を依頼。

２．議事

・観光地経営戦略の策定について

０章～２章まで

（丸山委員）計画の策定にあたって、現状と課題の部分について地域目線でのデータや分析が含まれているか。

（事 務 局）観光施設や宿泊施設へ調査を実施しているが、調査で数字が落ちていたりすると、ヒアリングを実施し、現状の把握に努めている。また、食のフェアでは漁業関係者や飲食店に対して現状の漁獲量や入込客数などもヒアリングし、課題について協議をしている。
議事録の公開の際に、同時に地域住民より意見をいただけるようにHPに公開を予定している。

（山田委員）現在総合計画策定に向けて市民向けのアンケートを取っており、観光の内容も入っている。結果として観光の重要度・満足度が高くないので、そういったアンケート結果も見ていくことも必要であると考える。

（早川委員）現状と課題について、受入側の廃業が深刻化している点については同意。観光入込客数などと同じくらい、廃業しそうな施設・業種についても現状を調べていく必要があると考える。
今後誘客を進めても、受入側（宿泊や漁業関連）のキャパの課題が出てくると思うので、市の関係課にヒアリングしたり、最初のうちに現状を把握しておくべきと考える。

（事 務 局）重要なことであると考える。廃業と新規の両面で見ていく必要があると考える。宿泊については、現在民泊の宿泊数などの数字は取得できていないので、新規で民泊を始める方もいらっしゃるので、誘客に向けて数字把握に努めていく。また、漁業資源は佐伯市の観光の肝であると考えるので、市とも連携を図って現状を把握していく必要があると認識している。

（川野委員長）現状と課題の課題について、この程度でいいのか、それとも本当に課題だと思っての表現なのか。どの市町村でも書ける内容で、例えば魚の種類が豊富であるのに、知られてないとか、認知されればもっと誘客できるなどの佐伯市オリジナルな内容を記載する方が、その課題を解決していくプランが具体的に見えるのではないか。課題の２つ目の２次交通の整備の課題については、観光まちづくり佐伯ができるかどうかでいうと、現実的ではない内容を課題として入れていくより、関与できることの中の具体的な考えを指し示したほうがいいと思うが、どう考えているか。

（事 務 局）この資料を作成する際に、17 ページの環境分析を当法人職員で話し合って、弱みの部分を課題として記載している。佐伯市全般のことを網羅的に記載しているので、課題に対して当法人が取り組める内容のもう一段の分析が必要であると考える。佐伯市全体の課題として、少ないと言われるかもしれないが、前提条件と認識していただければと考える。

３章から

（工藤委員）13 ページについて、観光まちづくり佐伯では、「おかえりなさいき」より「浦 100」を打ち出しているイメージがあるが、佐伯市も含めて、「おかえりなさいき」を打ち出しての PR をやっている媒体が今あるのか。

（事 務 局）市からも今後作成するポスターなどの媒体に入れていくように指摘はいただいている。
観光地経営戦略は基本的にさいきツーリズム戦略に基づいて、同じ方向性で策定していくものだが、次のさいきツーリズム戦略の策定と時期がずれているので、佐伯市とターゲットや目的をすり合わせながら、先行して策定を進めている。次の策定の際は議論されると思うが、現在のさいきツーリズム戦略の計画期間内は「おかえりなさいき」を使っていく予定で考えている。
「浦 100」を打ち出しているイメージを持たれていることは当法人としては喜ばしいことだが、佐伯市としては疑念があると伺っている。佐伯市の委託事業の成果物でも「おかえりなさいき」を使用する意識が薄かったこともあるので、今後は改善を考えている。

（工藤委員）おおいた観光データカタログの立ち上げの際に説明会に参加した記憶があるが、当時はデータ数がまだ集まってないという話を聞いたことがある。現在データ数は増えてきているのか。増えていないのか。そもそも信用して作成することが正しいのか。現状とこれからデータとして正式になっていけるのかを伺いたい。

（事 務 局）アンケートの回答結果の積み上げについては、まだまだ少ない状況だと考えている。現在当法人でもツーリズムおおいたのアンケートとは別で、各事業で取得しているアンケートがある。当法人のアンケートとツーリズムおおいたのアンケートを、一部修正しながら揃えることが出来そうな見込みがあるので、市から受託している事業が中心になると思うが、アンケート調査の方法を変えることを検討し、おおいた観光データカタログのアンケート回答数を増やしていくに努めていきたいと考えている。

（工藤委員）おおいた観光データカタログと観光まちづくり佐伯、佐伯市が調査しているアンケート結果を照らし合わせながら、整合性が取れているかをチェックしたうえで、指標を設定しないとこれから入込客数が増えたときに、目標値と差が出てくると意味がなくなるのではないかと考える。
もう１点、「浦 100」について、ターゲットに提供する価値などを見ると、自然で遊ぶとか体験すると書かれているところが多いが、実際に環境を保全していこうみたいな動きが観光まちづくり佐伯にあると、地域のためにとかコンセプトとして進めてよかったと思える地域住民が増えるのではないかと考える。

（事 務 局）仰るとおりで、保全することが第一の考え方で、それに対するコンテンツ作りとして、当法人が直接保全するというよりは、既に事業者がされているお手伝いや、そういった意識をいろんな人に広げていく活動を進めていきたいと考える。藻場の再生・植樹の関係や、牡蠣の養殖の作業に今後関わっていけたらと考えている。大入島の宮本さんの牡蠣養殖場の見学をスタディーツアーに入れさせてもらっているが、そういった啓蒙活動をしながら、保全に対する意識を作る手助けを進めていきたいと考える。それが「浦 100」に繋がっていくと考える。「浦 100」を初めて５年近く経過しており、環境の変化もあるので、少し

ずつ修正を加えながら、取組みを進める。

（早川委員）STP 分析についても、この作り込みだと他市でも作れる内容で、もうちょっと他市の競合を落とし込むなどの分析をしていかないと分かりにくいと感じる。例えば延岡市で同じこと言われても、全く遜色がないと感じる。佐伯市ならではの唯一性を出す細かい分析が必要だと感じる。

（事 務 局）仰るとおりで、同じ強みを持つ他市を表に落とし込む方が分かりやすいと考える。観光地経営戦略の策定事例も多くない現状であるため、引き続き STP 分析の内容については、事例や傾向を研究し、次回に向けて再度検討する。

（川野委員長）15 ページの KPI について２点質問がある。１つ目は「来訪者数の平準化」について、観光まちづくり佐伯として必要だと考えて設定していると思うが、なぜ必要なのかを聞きたい。全体的に下がっているところを上げたいという話だと思うが、そうなるとターゲット設定として、その時期に休みをとったり、時間を空けて佐伯市に来れるのかを考えると、インバウンドがあるのかなぐらいにしか思えない。そうすると８月の水準＋5,000 人伸ばす設計は現実的ではないと考える。少ない時期は時期なりの理由があると思うので、そういうところを加味してターゲット設定すべきではないか。全体を上げていくことの方が、平準化を目指すよりもシンプルでいいのではないか。その中でも平準化を求める理由を教えていただきたい。

２つ目は、観光関連産業従事者の満足度について、DMO をやる上で KPI を設定するのであれば、事業者とのエンゲージメントのレベル感がどこまで上がっているかを図る指標の方がいいのではないか。満足度は事業所ごとの給与の水準や従業員同士の仲の良さでブレると考える、観光まちづくり佐伯とビジョンに向けてどれくらい一緒にやれているかのエンゲージメントを図られているかの達成度の方が、DMO をやる意味も出てくるし、事業者も一緒にやろうっていう部分が出てくるのではないか。そういう設定の仕方もあると考えるが、どう考えているか。

（事 務 局）１点目も２点目も国のガイドラインで必須となっている部分ではない。月別来訪者数の平準化については、来訪者の季節的な偏りを図る観点で、KPI の設定が必要な部分で、具体例として設定されている内容を設定している。

２点目の観光関連産業従事者の満足度については、今年７月のガイドラインの改正前は観光関連産業従事者の平均給与額が必須で取得しなければならない項目であったが、改正を受けて必須ではなったが、地域内の従事者へ観光振興の裨益を感じるかの観点で KPI の設定をしなければならない点である。先ほどもお伝えしたとおり、観光地経営戦略を策定している自治体が多くないので、同じ観点での別の KPI の候補が少ない状況であるので、引き続き研究していく。川野委員長が言われた案については、今後実行計画を検討した上で、現状未設定の KPI が２ヶ所あるので、そういった箇所で設定していくなどを検討したい。

（川野委員長）KPI はあればあるほど薄れていく気がする。国としては必須としていない項目でもあるので、観光まちづくり佐伯としては大事にするポイントではあるが、KPI として設定すると達成できないことを突っ込まれて、本当に大事なことを裏でやっているのに、平準化を進めないといけないと考え、多い８月にイベントやらないといった本末転倒の話になるのであれば、１，２，３月を今の２倍入込客数を増やす目標の方が、事業者にとってメリットで、観光まちづくり佐伯としてもやっている意味を感じるのではないか。という面で変えた方がいいのではないかと考える。

（山本副委員長）必須の項目については観光まちづくり佐伯が頑張って上がる数字ではないと思うことと、そのような項目が多いなとずっと感じている。観光まちづくり佐伯が設定するのであれば、結果論みたいな数字を取るデータ屋になっても仕方ない気がする。こういった数字を上げる過程に観光まちづくり佐伯が間に入ってアドバイスをしたり、プロモーションを打つことが、DMO としてやるべきことと思う。どれくらい市内の事業者と観光関連のコ

ミュニケーションが取れていて、どれくらいのヒアリングができていて、課題に対してこういうアプローチをして、改善しましたというところが計画として取りにいかなければならないと思う。この計画だとデータ収集屋さんで一年が終わるような感じがするので、数字を追うことは大事だが、本質的に佐伯市の観光に従事する人たちの糧になるのかという点が１つ、今日全体を通して、前提・土台の話なので、なかなか言えることがないような気がする。数字に対して多分そうだよね、わかりましたで、ターゲットに対しても、そうだよね、それしかないよねっていうところだと思う。過程に対してどういうアプローチをしていくかが一番大事だと思うし、KPI を設定するのであれば、それを見れるものにした方がいいのかもしれない。

（事 務 局）仰られた点は重々承知している。当法人もこの数字を達成するために何をするのかが一番のミッションだと考える。ただ、そういうことをやった結果、こういう数字になりましたの成果も確認したいので、KPI 自体は一定程度必要だと考える。その成果に当法人がどれだけ関与できるかと言われると、関与できる点は少ないと考える。ホテルに対して金額設定やキャンペーンの助言はできないが、当法人が関与して何らかの誘客を図る方策を考えることはできるので、それをやった結果このようになったの部分を数字的に示していった方がいいと考える。

観光関連産業従事者の満足度に戻るが、当法人の職員だけにすると、人間関係や給与に左右される点があり、会社の中の状況を知るには大切なことだと思うが、一歩進んで事業者とのコミュニケーションでどういうエンゲージメントがあるかの満足度を、どういうふうに取得していくか当法人として考えながら進めていくことがいいと考える。

もう一点月別来訪者数の平準化について、多い月を減らし、少ない月を増して平準化を図るのではなく、少ない月を増やすことは必要だと考える。それを平準化と呼ぶべきか、他の指標にすべきか、もう少し検討する。

多い月をさらに伸ばしていくことは、佐伯の観光は食と夏場の藤河内渓谷を含む自然で考えなければならないと考えると、食は収穫量によって頭打ちになることも考えられる。伊勢海老は昨年過去最高の売上が記録されたが、例年９月から始まり、12 月まで引っ張るが、大体 11 月ぐらいで終わり、岩ガキも５月から８月まで実施しているが、7 月後半には頭打ちになることもある。伊勢海老海道については、予約が必要なため、予約が必要な民宿は１日１組、２組しか予約を受け付けられず、予約が取れない方もいらっしゃるという認識で、そうすると頭打ちにならざるを得ないところもあるため、さらに伸ばすことが難しい面もある。そのため少ない月を上げていくことが必要だと考える。事業者として伊勢海老が取れにくくなるや、予約が取りずらくなって頭打ちになることはあるか。

（早川委員）自然のことなので分からない点もあるが、今年は取れている方だと思う。岩ガキについて今年新規店舗が参加して、頑張ってくれるんじゃないかと。

正直販売数は多く出ている。伊勢海老については数字をまだ見れてはいない。

廃業が進む中で、新しく店舗を出す事業者もいると思うので、人口は減っているが、産業を無くしていかないように考えていける方がいいと思うし、自分も考えていきたい。

（事 務 局）真牡蠣が冬のイメージが定着しているので、10 ページの１・２月の少ない月に真牡蠣のキャンペーンを実施することも可能で、キャンペーンを実施することで１・２月を増やすことが可能だと考える。事業者としてどうか。

（早川委員）冬は落ち込むところがあるので、冬のブリを始めた経緯がある。現在は観光まちづくり佐伯が実施しているが、だんだん定着してきたこともあり、売上が落ちづらくなった。テレビに取り上げられれば大分市や福岡からのリピーターがブリを食べに蒲江に来てくれている。そういった平準化はできるかなとは思う。魚は旬があるので、旬に合わせるやり方は佐伯の強みだと考える。

（川野委員長）そういう意味で、来訪者数ではなく、売上が少ない月を底上げする面もある。ふるさと納税や EC サイトなど、物理的に来れないが、夏に来て魚が美味しかったから、冬にブリを取り寄せる人も多いという意味で、相対的に経済のボリュームが安定していく面もある。

（早川委員）15 ページの旅行消費額の目標で、100 億円ぐらい増やすとこだが、どの項目がどう増えるのかみたいなところが参考に教えてもらいたい。部門別で示されるとイメージしやすいので、どの項目がどれくらい増やす目標なのか、そういう情報から逆算して考えていくのも良いと考える。

（事 務 局）旅行消費額の積算については、KPI の延べ宿泊者数と観光入込客数を足し合わせて、一人当たりの旅行消費額を掛けて積算している。一人当たりの旅行消費額については、おおいた観光データカタログで食費・宿泊費などの項目があり、現状の数値は把握しているが、項目別に５年後の目標を出して、足し合わせて一人当たりの旅行消費額の目標値を出しているわけではなく、他の各種計画で設定している目標値の伸び率を参考に積算している。

（早川委員）旅行消費額のそこまでの積算資料を公表まではしないと思うが、事業推進委員会でそういった細かいところを見て、物価高騰の影響も含めて計算していかないと、ズレが出てくると思うので、今後の会議で出してもらえると助かる。

（事 務 局）物価指数は考慮している。ただ、宿泊費などの項目別にいくらにするかの目標までは設定しきれていない。目標値と実績がかけ離れていくことも考えられる。現在一人当たりの旅行消費額は宿泊と日帰りの単価になっているので、今後アンケート結果によって、それぞれがどれくらいの割合を占めるかによっても変わってくると考える。今後の実績を見ながら、かけ離れるようであれば再度調整をするなども含めて検討していく内容であると考える。

（川野委員長）国からは目標の上げ幅について指定はないか。

（事 務 局）国の指定はない。

（川野委員長）伸び率について、人口が減少していく中で点数・利用者数・物価高の形成も変わってくることを考えると、頑張りますの気持ちはわかるが、大丈夫か？と感じる。もうちょっとマイルドにしてもいいのではと考える。その辺をもうちょっと詰めてもいいのでは。

（事 務 局）旅行消費額については、一人当たりの旅行消費額を４％上昇で計算している。消費者物価指数を 2～2.5 と言われているので、当法人が関与していくらかあげていきたいということで、合わせて４％という目標を目指す。この一人当たりの旅行消費額と観光入込客数・宿泊者数を掛け合わせている。観光入込客数と宿泊者数も何らかの形で努力をしながら、増やしていかなければならないということで、２％ずつ伸ばす計算で、それを掛け合わせて、結果旅行消費額として６％で、物価指数が２点何％だから６％が高いと指摘をいただいたが、それぞれを伸ばしていくとして積算している。それが良いのか悪いのかはわからない、もうちょっと細かくしないといけないのではないか、と指摘もあると思うが、細かく計算したから必ず当たるとは限らないので、一つの目安として、作らせていただいた。５年間なので、大きく凹むところもあれば、１年目で目標達成するかもしれない。その時は目標を新たに設定しなおしてやっていく必要があると考える。

（川野委員長）何の２％が何の４％なら観光まちづくり佐伯が関与できそうみたとことが分かると良いと思う。観光入込客数を２％増やすことなのか、宿泊費を５％あげることなのかっていうと、多分前者の方が関与しやすい点が見えているから、やることが決まるみたいな感じも良いかもしれない。

（三浦委員）佐伯市だけの問題ではないと思うが、佐伯市は交通の便が悪いところがあると思うので、今宿毛フェリーが休航しているが、観光の入口を広げる意味合いで、四国からの誘客やターゲットとして、四国から佐伯市に来る人を増やせるのではないか。フェリーの運行が観光に良いと考えるが、現状はどのような感じか。

（松木委員）宿毛フェリーに関しては公共の航路ではなく、民間の航路であるため、復活についての話は出るが、行政からは話ができないところがある。国の補助についても四国から九州を繋ぐルートは他にもあるので、補助金活用についても難しい現状である。

（三浦委員）行政として民間の支援は難しいのか。

（松木委員）佐伯市に限って言うと、大入島などの航路がないと生活ができない状況であれば、補助制度はあるが、そういった航路ではないので、難しいと考える。

（事 務 局）第４ターゲットで大阪在住のカーフェリー利用を入れているが、あくまでもさんふらわあメインで、四国と九州繋ぐカーフェリーもあるので、四国のカーフェリー利用者もターゲットに入れるべきという意見があれば、検討していきたいと考える。省いたわけではなく、その点も議論したが、ターゲットが広くなると考え、現在さんふらわあと関わりもあるので、大阪からの誘客を伸ばしていきたいなというところで載せている。委員の皆様のご意見で四国も入れるべきとの話があれば、しっかり検討したいと考える。
（三浦委員）是非お願いする。
（川野委員長）国策として造船クラスターで造船を強くしていこうとの動きもある。その流れで派生してや、構想段階で詰まっていないなどあるが、３年後ぐらいだったらもしかしたら、機運が高まり、現実で成果があるかもしれないなと思う。今がベストかという考えはある。